

平成23年度 【 学園研究費助成金 】 研究成果報告書

学部名 生活科学部

フリガナ ムラカミ シン
氏名 村上 心

研究期間 平成23年度

研究課題名 中国およびタイの地区再生に関する研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	村上 心	生活科学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字~300字程度で記述)

団地再生というテーマは、村上が海外の研究者と共同で研究を行って来たものであり、日本／世界をリードする分野である。この知見を活かし、一国が住宅供給を全体計画として策定する中国という新しいフィールドに展開するものである。

中国については、マスのハウジング時代に大量に供給された団地の再生上の課題の抽出を行う。併せて、再生事例の調査も行う。

タイについては、スパンブリ州にある百年市場を対象として、昨年度の Samchuk 市場の原型再現、保存再生時課題抽出研究を承けて、再生計画の策定を行う。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

中国：1.団地の課題抽出：文献調査、現地でのヒアリング調査により、マスのハウジング期に建設された大規模団地の再生上の課題を抽出／整理する。

インタビュー調査先：中国遼寧工程技術大学 建築工程学院
中国大連理工大学 建築与芸術学院

2.既存の再生事例／手法の抽出を行う。

タイ：1.日本（椋山女学園大学（村上研究室）・国士舘大学（南研究室）・東北大学（五十嵐研究室）・首都東京大学（青木研究室）・国士舘大学）／タイ（SRIPATUM 大学・CHULALONGKORN 大学）双方の大学の共同で実施するワークショップ手法による再生計画の策定を行う。

2.百年市場の関係者の提案への評価を行う。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

中国：中国を研究対象として、地区再生・団地再生を研究するために、2011年11月25-30日に4日間の調査を行った。まず、現地で資料/文献の収集を行い、文献調査により、中国の住宅地開発に関する歴史・文化・経済・社会的背景が分かってきた。そして、現地の同共研究者にインタビューを行い、中国の団地供給の背景や住宅ストックの概況、住居の現況などが把握できた。既存の再生事例の抽出を行い、中国の団地再生に関する問題点や手法が明らかになっている。今後、中国のマスハウジング期に建設された大規模団地の再生に関する研究の方向性を示唆するものとして期待出来る。一方、これまで、海外の研究者と協力して、団地再生というテーマでの研究を行い、日本と世界をリードしている。この知見を活かし、政治システム、住宅供給、社会環境について特別である中国という新しいフィールドに展開するものである。以前の自らの研究がこれまで関わっていないものの、大量の団地が存在し、これからも造られようとしている中国を研究対象として、研究の領域を開拓していく。

タイ：昨年度の課題抽出(学園研究費(A)の助成による)を承けて、タイ百年市場再生保存ワークショップを運営し、百年市場の方々の再生保存に対する意識の向上を目的とし、タイ・日本双方の共同のワークショップを実施した。9月6-11日に6つのテーマによるグループとして現場調査、ディスカッション、プレゼンテーションを行った。現地での成果発表会では、専門家、住民の方々は学生の再生案を高く評価した。また、成果発表会への参加者に対してアンケート調査を行ったところ、今回のワークショップに対し高い評価をした人が大部分を占めたことにより、現地への貢献が確認できた。尚、渡航費、宿泊費については、japan foundationからの助成を受けて行った。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①再生	②保存	③中国	④タイ
⑤団地	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他○名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもの数件を記載。)

中国：今回の調査について、2012年11月に予定されているCIBW104(建築研究国際協議会)にて研究成果を発表する予定である。

タイ：1. 2011年9月19-25日に、国土館大学、首都大学と協力して、横浜トリエンナーレの展示ブースで、タイのワークショップの成果を展示した。

2. 2010年度の研究内容と今回の再生計画を含めて、報告書を発行/刊行する。